

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：対象地域の住民の健康行動が推進される。 上位目標の指標： NCD リスクサーベイ 2010 より、生活習慣に関する調査項目が半数以上、改善される（運動、たばこ、BMI、腹囲、野菜果物摂取量、血圧測定経験等） バングラデシュにおける非感染性疾患（NCDs）の拡大と負荷の増大の原因として、病気への理解不足、基礎保健サービスにおける NCDs 対策の脆弱さ、医療格差、人材不足、健康に悪影響を与える生活習慣・環境汚染などがあげられる。上位目標「住民の健康行動推進」の達成には、これらの問題の克服が不可欠である。 ・本事業を通して育成された啓発・保健教育を実施できる人材は合計 1,100 人となった。組織別にみると、子どもの健康教育の担い手である学校、専門家を育成する大学、人々の価値観や生活規範に影響を与えられる宗教施設、村人にとって最も身近な医療施設である薬局、各地域で機動性を発揮している既存のグループ（ユースクラブ等）が、NCDs 予防啓発（一部は健康診断）の拠点として活用できるようになった。この人材から啓発を受けた人はのべ約 17 万人（対象地域人口の 110%）に上る。 ・2015 年 4 月に行った対象地域内の一般住民 240 人へのフォローアップ調査の結果、NCDs を知っているとした人は 71%（1 年前同調査の 1.5 倍）、66%が一つ以上のリスクをあげることができた。 ・住民グループ主体で実施された 99 回の健康診断キャンペーンで約 9 千人が健康診断を受けた。 ・このキャンペーンは保健ワーカーやボランティアの実地訓練の役割を果たし、対象地域内のコミュニティクリニック（CC）と家族福祉センター（FWC）全 22 か所で、NCDs の予防指導と血圧・血糖・体重・腹囲などの健康診断が受けられるようになった。このことにより農村部の貧困家庭の女性を含む、脆弱層の NCDs に関する保健アクセスは大きく改善した。 ・フォローアップ調査の結果、「2 年以内に血圧測定を受けた人」は 8 割となった。（開始時は 3 割程度） ・啓発活動など本事業の影響を受けて、慢性ヒ素中毒や癌の原因である飲料水中のヒ素を回避するため検査（自費）を受けた世帯は千世帯。安全な水を得た人は 1800 人。慢性呼吸器疾患の原因である旧式かまどから改良かまどへの作り替えは 377 基である。 上述の通り、対象地域において、NCDs をさけるための、知識不足、指導や早期発見を担う人材・組織不足は解消され、健康に害を与える環境汚染を克服する力は向上されつつあり、上位目標「住民の健康行動の推進」の基盤は形成されてきている。 残された課題は、保健ワーカーによる NCDs 患者のフォローアップである。保健サービス局作成の NCDs ガイドブックに記載されている「保健ワーカーによる NCDs 患者の管理」が、現在までのところ業務指示として出されておらず、保健ワーカーのできることに限界がある。保健サービス局との協議を行いながら、改善を図っていききたい。

（ここでページを区切ってください）

(2) 事業内容	本事業は全 3 か年を持って、以下の事業目標を達成する。 ①健康教育を行う人材が育成され、地域住民が非感染性疾患（以下 NCDs）の予防行動を取り入れる。（主に 1 年目に実施） ②保健医療従事者が NCDs に関する知識・能力を高め、早期に適切な医療管理下に置かれる患者が増える（主に 2 年目、本年に実施） ③ユニオン開発調整委員会が活性化され、疾病発生の予防策・患者に対する既存の社会保障・研修の活用等分野間連携による NCDs 対策が促進される。（主に 3 年目に実施） 【活動 1 健康教育の実績】 事業終了後も地域で健康行動の牽引役となることが期待できる人材として、1 年次にフィールドファシリテーター（FF）8 人、ソーシャルサポートグループ（SSG）240 人、コミュニティグループ（CG）240 人、2 年次には中等学校教師 36 校 536 人、保健ワーカー 73 人、および村医者 78 人、累計約 1,100 人を育成した。SSG の声かけで、約 200 人の学生ボランティアも参加している。事業終了後も NCDs リスク予防について伝授する人材は整いつつある。 この人材がこれまでに、一般住民 93,813 人（各戸訪問 61,653 人、一般啓発 24,998 人、茶屋啓発 7,162 人、啓発劇 5,132 人）、初等学校児童 90 校 9,707 人、中等学校学生 36 校 11,322 人、イスラム宗教指導者などの啓発 57,968 人（礼拝時の減塩や運動の推奨）など、合計のべ約 17 万 2810 人に対して情報発信と啓発活動を行った。この数は対象地域の人口の約 110%にあたる。 NCDs による地域の負荷が増大する中、この NCDs への住民の関心は高く、活動はテンポよく進んでいる。他方、一度話を聞いても、網羅的に生活改善に取り組むことは難しく、浸透・定着は容易ではない。このため個別訪問を行うなど、丁寧な対話を進め、阻害要因の把握にも努めている。 【活動 2 保健の質とアクセスの改善の実績】 2014 年 9 月に保健ワーカー 73 人、村医者 78 人を対象に研修を実施した。2 年次に計画していたメディカルキャンプだが、2013 年 11 月から開始していた健康診断キャンペーンの有効性がより高いと判断し、事業内容の変更手続きを 8 月に行い、承認された。健康診断キャンペーンは SSG が開催者となり、SSG から支援要請を受けた保健ワーカー、学生ボランティアらをマンパワーとして実施したため、会場設営費及び不足する機材購入費程度で、実施を継続できている。当初は、保健ワーカーらは正しい血圧測定法すら知らなかったが、本事業はこれを実地研修の機会ととらえ、マニュアルペーパーも作り、日本人専門家を中心に丁寧な指導を行った。この診断キャンペーンの結果、住民は、生活拠点により近い場所で、安価に（血糖値測定を除き無料）、正しい知識と技術を習得した保健ワーカーによって、健康診断（血圧・血糖・BMI・ヒ素中毒等）と健康指導を受けることができた。その数は 9,019 人（うち 76%が女性）に上る。対象地域の 25 歳以上の人口の 8%が参加した計算となる。血圧では測定者の 29%（2,625 人）が高血圧でそのうち 54%（1412 人）が高血圧との自覚がなかった。血糖では測定者の 31%（396 人）が高血糖でそのうち 56%（206 人）が新規発見であった。ベースライン調査では、7 割が血圧測定を受けておらず、その理由が「必要性を感じない（7 割）」が「検査できる場所が遠い（3 割）」を上回っていたので、健康リスクの自覚を促すうえで大きく貢献する活動となった。
-----------------	---

	健康診断キャンペーンで多くのことを学び、必要性を認識した保健ワーカーらは、通常業務にも NCDs に関する活動を取り入れ始めた。対象地域の政府の保健サービス拠点であるコミュニティクリニック (CC) と家族福祉センター (FWC) 全 22 か所 (CC18/FWC4) で、保健ワーカーによる測定、生活指導、レファerralが開始された。リスク予防に限定されたサービスではあるが、対象地域内の初の公的保健機関による NCDs サービスとなる。農村部には医療機関への距離、経済的困窮、家庭内格差 (女性の治療費が確保されにくい) などの問題から治療を受けにくい人が多い。こういった周縁化された人々の手の届くところに、NCDs の予防教育と早期発見の機会を提供したことで、罹患と重症化のリスクを低減することができた。9 月以降 CC/FWC 拠点で測定や指導を受けた人の数は 22,588 人、村医者のところでは 1,600 人を超えている。 今後の強化すべきポイントとしては、重症化予防のための患者のフォローアップであるが、保健サービス局が CC に配布する計画の「患者台帳」と「患者カード」に届いておらず、政府によるフォローアップ体制の整備が遅れている。他方、現場からは CC/FWC への医師の巡回とキャンペーンへの医師の参加を求め要請があがっている。この件について、2014 年 12 月の保健サービス局 NCDs 対策課課長および副プログラムマネージャーの現地視察の際、関係者で協議をすることができた。保健サービス局 (郡・県・中央) 側も十分理解しているが、郡保健所からフィールドへの医師の移動手段が確保されていないこと、更に 12 月末より政情不安によりゼネストと道路封鎖が続き移動できない日が増えたことから、医師のキャンペーンへの参加と CC/FWC の巡回は実現できなかった。今後、医師との連携を強化することで、住民のニーズに答えるとともに、適切な患者の自己管理の推進と適切なレファerral体制を充実させていけると考えており、保健サービス局との協議を続けたい。 【活動 3 分野間連携による環境整備の実績】 社会的決定要因の一つである安全な水へのアクセスに関連して、プロジェクトは公衆衛生工学局と協力してユニオン関係者 120 人に砒素検査の方法を研修した。各ユニオンは自ら作成した計画にそって検査を実施しており、これまでに累計 1,000 基 (1 年目 287 基、2 年目 713 基) の井戸の検査を実施した。本事業の働きかけによって安全な水を飲めるようになった人口は 1,800 人を超える。また、本事業の啓発活動を受けて、改良かまどがすでに 377 基が設置されている。 構成メンバーの 9 割が NCDs 患者とその家族で占めるコミュニティグループ (CG) に対して、農業局普及員が家庭菜園研修を実施した。研修受講者の 7 割以上が家庭菜園を介し日々の野菜摂取量を増やすことに成功している。 以上のように、事業実施を通じて健康教育、保健サービス向上、環境整備のための人材は確保されつつあり、3 年間を通じてのプロジェクト目標「非感染性疾患対策を支える人材の増加」の達成に近づきつつある。
(3) 達成された成果	指標 1-1 健康課題が各地域で設定される 2013 年 7 月に 4 つのターゲットユニオンに、各 3 つの社会支援グループ (SSG) が結成され、12 の SSG は自らの地域にとって重要な健康課題 (知識不足、誤った生活習慣、運動環境の欠落、環境汚染等) を選択し、それを克服するための活動計画を立て実行してきた。活動を通じて「早期発見の機会の欠落」が課題であることを認識した SSG は、それに対応する活動として健康診断キャンペーンを加え展開している。

指標 1-2 50%のコミュニティグループ (CG) メンバーが非感染性疾患予防の行動を取り入れる (2 年目はフォローアップ調査対象者の 40%)

CG メンバーへの 3 月のモニタリング調査で、100%の CG メンバーが少なくとも一つの予防のための生活改善を開始していると答えた。

指標 1-3 啓発教材が完成する

バングラデシュ版食品単位表、ラジオ体操とみんなの体操のベンガル語吹き替え、血圧測定マニュアル、運動指導教材、DVD、メッセージ入りノート、掲示板、健康診断キャンペーン台帳と受付スリップを作成した。

指標 1-4 地域の健康課題を理解する住民の数 (2 年目はフォローアップ調査対象者の 40%)

2014 年 4 月に 240 名の住民を対象にフォローアップ調査を実施した結果、71%が「NCDs を知っている」と答え、66%が少なくとも一つの NCDs リスク要因 (地域の健康課題) を知っていると言った。

指標 2-1 保健施設の来所者の 30%が保健ワーカーから生活指導を受ける (2 年目はフォローアップ調査対象者の 25%)

2014 年 9 月から CC に来所した人のうち、37.4% (20,307 人) が生活指導を受けた。この他、プロジェクトが研修を実施した村医者 (薬局) によって、50,207 人が血圧測定、4,026 人が血糖値測定をしており、1,663 人が病院等にレファールされている。また、貧困者 2,115 人に対して無料で血圧測定などのサービスを提供している。

指標 2-2-1 健康診断キャンペーンで発見される患者とハイリスク者の数

第 2 年次に健診キャンペーンを 71 回 (累計 99 回) 実施し参加者数は、6,699 人 (累計 9,019 人) であった。このうち高血圧 (140/90 以上) は 1,732 人 (累計 2,625 人) であり、そのうちこれまでに医療機関等で高血圧と言われ薬を服用したとあると答えた人は 825 人 (累計 1,213 人)、ないと答えた人は 907 人 (累計 1,412 人) であった。高血糖 (RBS7.8mmol 以上) は 238 人 (累計 364 人) であり、そのうちこれまでに医療機関等で糖尿病と言われ糖尿病の治療をしたとあると答えた人は 109 人 (累計 170 人)、ないと答えた人は 129 人 (累計 194 人) であった。その他、喘息 118 人、心臓病 32 人、砒素患者 27 人がキャンペーン受付時に既往歴として確認されている。

指標 2-2-2 健康診断キャンペーンの参加者の 60%が体重と血圧に関して正しく理解する (2 年目はフォローアップ調査対象者の 40%)

2015 年 5 月に実施した健康診断キャンペーンに参加した人の中から 80 名 (20 名×4 か所) に出口調査を行ったところ、体重については 100%が、血圧については 98%が自分の状態について理解していた。

指標 2-3 CC に登録された患者の 50%が保健ワーカーによりフォローアップを受ける

これまでに症度、経済的状況、家族構成などから、CC としてフォローアップの必要のある患者を 34 人 (男性 11 人、女性 23 人) 選定し、フォローアップが実施されている。

指標 3-1 ユニオン調整委員会での非感染症に関する協議回数

4 ユニオンで計 18 回、NCDs 対策に関する協議が行われた。

指標 3-3 研修の受講者の 50%以上が習得した内容を実行に移す

241 人の CG メンバーが家庭菜園研修を受け、82%が実行に移した。

※詳細データは別紙参照

(4) 持続発展性	8月に中間評価を実施し、本事業の核となっている健康診断キャンペーンの持続発展性に関する議論を行った。 対象地域内にあるコミュニティークリニック(18)/家族福祉センター(4)では、政府から配布された血圧計、身長測定器、体重計を活用して健康診断が実施できるようになった。血糖測定はコミュニティークリニックのみであるが、検査費用 30tk を受診者から受け取り、検査用紙再購入費用としてあてる形で継続することができている。これは政府の指針によるものであったが、対象地域外では検査が持続している地域は少ない。政府は NCDs ガイドブックの中で、各保健医療機関に NCDs コーナーを設置する計画を示していたが、現在までのところ実体化している地域はない。本事業では健康診断キャンペーンで各保健ワーカーは約 700-800 人の測定と指導を行うことができたためそれが実地訓練となり、実質的にこれらの施設内の NCDs コーナーを立ち上げることに成功している。 NCDs による突然死や慢性疾患による健康被害と長い闘病生活は、家計を圧迫し日常生活を困窮化させ、ある家庭は崩壊している。このような現状課題について SSG を中心として地域内で認識を深めることで、健診キャンペーンは地域住民の切実なニーズを呼び起こし、地域ボランティア等の協力を得ながら計画・運営されている。 これまでに SSG 以外で健康診断を継続できる候補として、コミュニティークリニック/家族福祉センター、ユースクラブのような既存のグループ、薬局を営む村医者、学校、宗教施設などをあげ、それぞれの強みと課題を分析し、それぞれが血圧と BMI の測定と生活指導ができるよう支援を続けられるように活動支援を開始した。特にコミュニティークリニックの運営母体として政府により設置が義務付けられている Community Support Group を中心として、健康診断キャンペーンの実施を担えるようモデルづくりを継続し、住民側の要求をサービス提供者である保健ワーカーをはじめとしてユニオン議員へ伝えていく支援を進めている。
-----------	---